

# NIEのある学習風景～総合学科「現代社会」の現場から

## NIE 学習実践レポート

HIROSHIMA  
KOKUSAI  
GAKUIN  
HIGH SCHOOL



## はじめに

昨年度、「産業社会と人間」の学習で「壁新聞づくり」を取り入れた総合学科1年生。2年生に進級した今年度も、「現代社会」の授業を活用し、NIEでの活動を発展させることとしました。

基本的には、他校でも取り組まれている、公民分野とNIEを関連付けさせるオーソドックスな形式を取り入れています。ただし、新聞記事を楽しみながら、かつみんなで考え、学びを高める(主体的かつ深い学び)工夫をしながら1年間取り組んでいこうと思っています。具体的な達成目標は、以下の通りとしております。

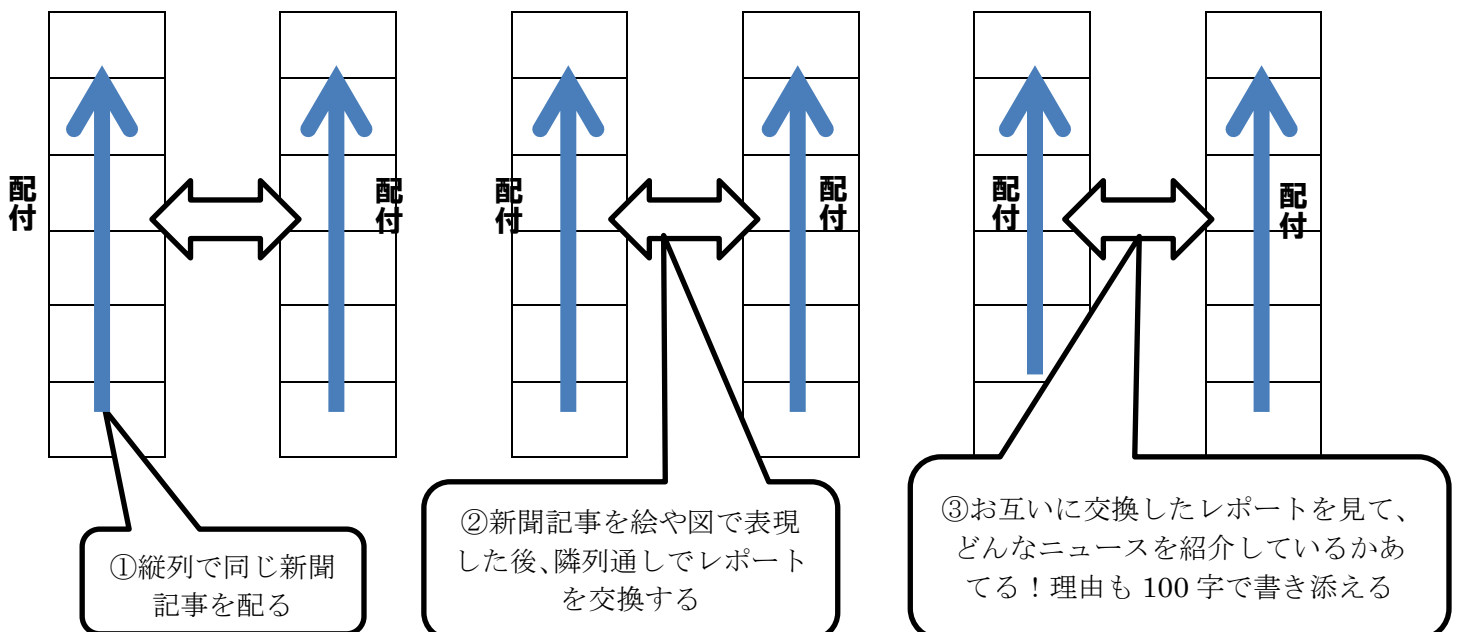
### 1年間を通して目指す達成目標

- ①新聞を通して読解する力を身につける
- ②知り得た知識を他者に分かりやすく発信できる力を身につける
- ③1つの新聞情報に対し、様々な考え方があることを理解する。そして、その考えに共感、さらには活用し、新しい考え方を生み出すきっかけづくりを見出させる。

第1回目の授業では、この実践のレディネスとして、「知り得た情報を他者に分かりやすく伝える」実践と、「他者のフィルターを通して得た情報をできるだけ正確に解釈する」実践に取り組みました。今回の実践で生徒に気づいてもらいたいことは、学習する前段階で、①どの程度新聞を読み解く力があるか、②情報を発信、受信するためにどのような技術を学ぶべきかを確認することを意図しています。

## 学習の流れ

(図1：学習活動配置図と大まかな手順)



①クラス席を6列とする。隣り合わせでゲームを実施する（図1のとおり）。

②列を整えた後、生徒に2種類のレジュメを配付する。1つ（写真左側）は、配付された新聞記事を他者に分かりやすく表現するレポート。もう一方（写真右側）は、相手から渡されたレポート（写真左側）が何のニュースを相手が解釈したのか、さらに「なぜ、そのニュースと思ったのか」の理由を書くレポートである。

学年 22「2017」 第4号  
広南国際高等学校総合学科1-2学年「現代社会」  
～現代社会の「情報」を伝達に上手く伝達する・上手く取るろう！～

**挑戦してみよう！～**  
◆指示された通り新聞を活用しよう。  
**【読-写】**  
配付された記事を読み、隣の人に絵や図などを書いて記事の内容をできるだけ正確に伝えよう。  
**【読-書】**  
作成したものに、以下のものは入れてはいけません。  
○記事のタイトル  
○タイトル内にある言葉を細切れで活用する  
○記事文章を引用する。  
【記事を読み作成した絵、図】

総合学科2年 組 番 名前：

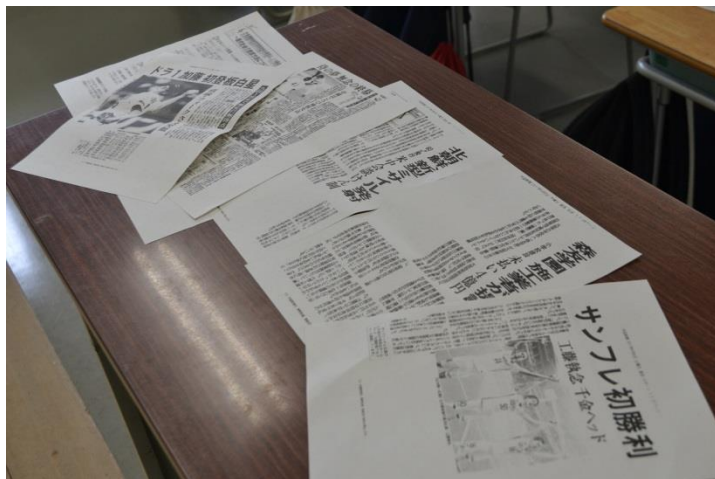
学年 22「2017」 第4号  
広南国際高等学校総合学科1-2学年「現代社会」  
～現代社会の「情報」を伝達に上手く伝達する・上手く取るろう！～

**挑戦してみよう！～**  
◆相手が作成した「絵・図」をみて、ニュースを推測しよう！  
①相手が作成したニュースはいつだったの？

②なぜ、①のように思ったのか、理由を書こう！

総合学科2年 組 番 名前：

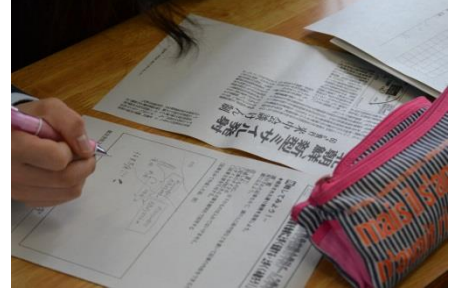
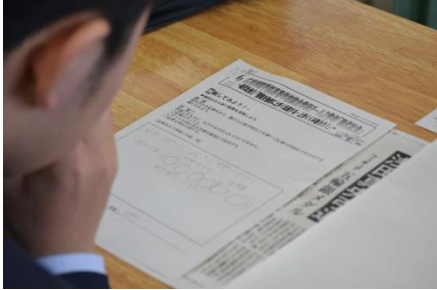
③ 実践に必要な記事を配付する。記事は、今月起きたニュースに焦点を絞り6列に合わせて6種類用意した。



④ 用意した記事を列ごと（6列）に配付する。配付方法は、列の先頭者にジャンケンさせ、勝った者から優先的に記事をとっていく。ゲーム性を出し、生徒たちに楽しませるため、記事は伏せたままとし、どの記事を選んだかは分からないようにした。

⑤ 配付された記事を開き、20分程度で新聞記事のニュースを自分なりに解釈して図・絵、文章として表現する。表現する時、以下の点を留意事項として生徒に伝える。

- (1) 記事タイトルは使わない。記事本文にタイトルのワードが入っていた場合も使用を禁止する。  
(2) 表現方法は、絵や図、タイトルに変わる文章を使っても可能とする。



⑥ 15分経過後、同じ列の生徒同士で作成したレポートを見せ合い、相手に伝えるために必要な事項を確認し合うことを許可する。自分が作成したものがないポイントを他者のレポートをみて、再検討する。

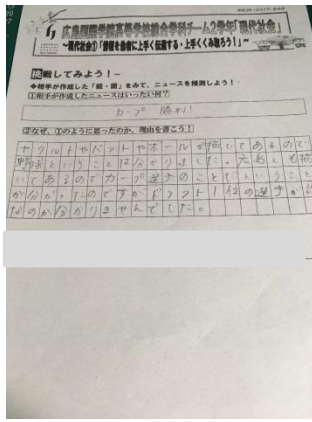
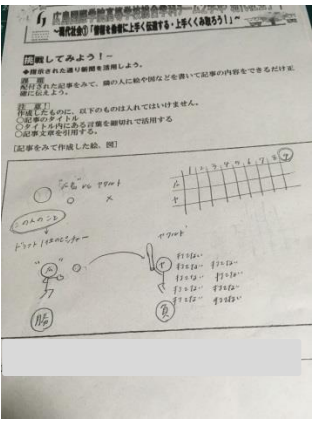
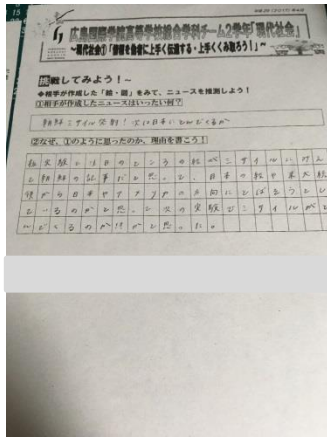
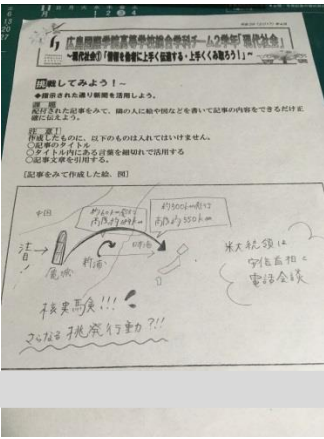


⑦ 20分経過後、作成したレポートを交換する。



⑧ 交換後、相手の作成したレポートをみて、どのようなニュースかを解答する。その際、200字程度で理由も書く。

\*作成したレジュメとそれを生徒の感想。解答となる記事を掲載しました。

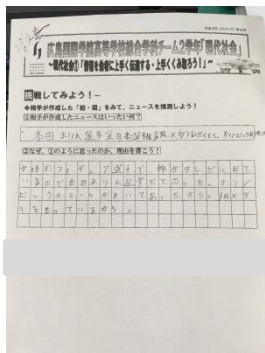
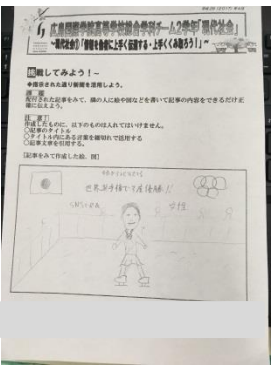


[授業を实践しての様子]

○多くの生徒が、タイトルを使わずに新聞記事を表現することに戸惑いを感じていた。初めの5分間程度は、新聞記事を見ながら、どのように表現するか思案していた。

○タイトルを使わない代わりに、別の言葉に変換しようとする生徒が登場した。例えば、(写真左端)の通り加藤を表現するため、①絵で表現する、②ドラ1=ドラフト1位のピッチャーと変換、③洒落をいれて表現する(打てないを連呼して、ノーヒットピッチングを表現、9回に何かがあったことを表現)など工夫を凝らした形を取っていた。

○詳しく表現しすぎることによって、余分な情報を伝え、相手に誤った解釈を引き出すきっかけとなった生徒もいた。(写真下、浅田真央引退を伝えるはずが、本田真凜の銀メダル獲得に変化)



○初めて見る記事を前にして、知らない用語をどのように表現するかで苦心する生徒がいた。

上記のような形で、生徒は授業終了後、次のような学びを手に入れることができた。

- (1) 新聞記事を広く読解する力
- (2) 専門用語等を辞書や他のツールを使って獲得する必要性を実感。
- (3) 自らが描く情報像と他者が受け取る情報像には差がある。とりわけ、細かく伝えようとするほど、誤った情報伝達になることも実感。
- (4) 表現の整理、情報を分かりやすく変換する力、他者に伝わる形には多様性があるということ。